

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

芝山町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

千葉県山武郡芝山町

3 地域再生計画の区域

千葉県山武郡芝山町の全域

4 地域再生計画の目標

芝山町は千葉県の北東部に位置し、都心から 60 km圏にある。また、日本の空の玄関口である成田国際空港に隣接している。町全域は下総台地の一端にあり、南北に流れる高谷川、木戸川に沿った平坦地と丘陵地から構成され、平坦地は丘陵地に入り込む形で多くの谷津地を経営している。農業を主幹産業として高品質な農産物が盛んに生産されている。町内に立地する 3 つの工業団地には、製造業から空港関連産業まで多種多様な企業が操業している。

芝山町の人口は 1995 年をピークに減少傾向にあり、2015 年の国勢調査では 7,431 人となっている。国立社会保障・人口問題研究所による市町村別人口推計（2019 年 6 月版）によれば、芝山町の人口は今後も減少が続き、2040 年には 4,629 人、2060 年には総人口は 3,000 人を下回る 2,683 人になると予測される。

年齢 3 区分人口においては、少子・高齢化の進行と生産年齢人口の減少が進んでおり、2000 年から 2015 年にかけて、年少人口が 475 人減少する一方、老年人口は 490 人増加し、生産年齢人口は 988 人減少している（2015 年：年少人口 776 人、生産年齢人口 4,221 人、老年人口：2,431 人）。

出生数と死亡数からみた自然増減は近年自然減の傾向にあり、2018 年現在 59 人の自然減少となっている。なお、合計特殊出生率については、全国平均を上回る年もある一方で 2016 年には 0.80 と大きく低下するなど変動の幅が大きいものの、近年は全国値や千葉県値を下回って推移しており、2017 年は全国平均 1.43、

県平均 1.34 を下回る 1.21 となっている。

社会動態については、2004 年以降しばらく社会減の傾向が続いたものの、近年は社会増に転じる年もみられ、2018 年は 75 人の社会増加となった。

上記のとおり、本町における人口減少は今後も進行すると予測されており、このままでは地域経済の縮小、社会保障の負担増等多くの弊害の発生等、本町の衰退に繋がる可能性は否定できない。

これらの課題に対応するため、本計画において、次の事項を基本目標として掲げ、人口減少に歯止めをかける。また、本町においては成田空港の更なる機能強化や圏央道整備の推進に伴う新たな定住も期待できることから、人口確保に向けた一体的な取り組みを実施し、人口増につなげていく。

- ・基本目標Ⅰ 安定した雇用を創出し、安心して働ける環境を整備する
- ・基本目標Ⅱ 新しいひとの流れをつくる
- ・基本目標Ⅲ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ・基本目標Ⅳ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	人口に占める就業者の割合	54%	55%	基本目標Ⅰ
イ	町HP年間アクセス数	50万PV	55万PV	基本目標Ⅱ
イ	風和里しばやま年間レジ通 過者	57万人	58万人	基本目標Ⅱ
ウ	合計特殊出生率の増加	1.21	1.5	基本目標Ⅲ
ウ	乳幼児(0～5歳)率の増加	2.8%	4.5%	基本目標Ⅲ
エ	転入者率の増加	3.2%	4.5%	基本目標Ⅳ
エ	DMO、大学等と連携した交 流促進の取り組み件数	2件	5件	基本目標Ⅳ

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 及び 5-3 のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

芝山町まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 安定した雇用を創出し、安心して働ける環境を整備する事業

イ 新しいひとの流れをつくる事業

ウ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる事業

エ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る事業

② 事業の内容

ア 安定した雇用を創出し、安心して働ける環境を整備する

人口減少を抑制し、町民の暮らしを支える社会基盤や行政機能を将来にわたり維持するために、安定した雇用を確保することが必要である。

このため、若者やUIJターンの受け皿となる地域雇用の場の創出や農業・産業、働きたい意欲のある人が働きやすい環境づくり等「働ける場所の創生」に取り組む。併せて、新規のビジネスにチャレンジする人材育成支援や女性が活躍する社会づくり等「ひとの育成」の取り組みを進める。

【具体的な事業】

- ・雇用促進事業
- ・産業用地の創出
- ・企業誘致
- ・農業振興支援事業 等

イ 新しいひとの流れをつくる

芝山町に移住・定住したいというひとを増やすために、まず芝山町のよさや特色を知ってもらうこと、来てみたいと思ってもらうことが重要である。このため、地域資源を生かした観光やスポーツによる交流促進

や DMO や大学等との連携、町へのアクセス向上により関係人口を増やす取組を進める。さらに、ここに住みたいという人に対し、空き家の利活用や住宅支援などによる移住定住促進を図る。

【具体的な事業】

- ・ 観光振興事業
- ・ 結婚・子育て世帯住宅購入支援事業
- ・ DMO、大学等と連携した交流促進事業
- ・ 空き家対策事業 等

ウ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

町民意識調査によれば、子どもの人数の理想では「3人」が多い一方、現実的に「2人」となっており、少子化の要因として個人の価値観や意識の変化について子どもの生活費や教育費の負担が挙がっており、経済的支援も含めた子育てしやすい環境づくりが求められている。

こうしたことから、結婚、妊娠・出産、育児に至る各段階の負担・悩み、不安に対し切れ目ない支援に取り組むとともに、芝山町としての特色を生かした質の高い教育環境の整備を推進する。

【具体的な事業】

- ・ 子育て支援施設整備事業
- ・ 成田空港と空港にしごとを知る講座事業
- ・ 特色ある学校教育の推進 等

エ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る

町民意識調査によれば、重要だが満足していない町の施策として「交流連携を支える交通ネットワーク」や「安全を支える体制づくり」、「快適な生活環境の整備」、「魅力のあるまちづくり」が挙げられている。

こうしたことから、時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るために、地域の住民がともに生き生きと暮らせる拠点づくり、成田空港の機能強化に伴う交通インフラや周辺実態との連携強化等を進める。

【具体的な事業】

- ・ 住民主体・地区主体の自主防災組織設置促進
- ・ 公衆無線 LAN 整備事業

- ・低利用公共施設利活用事業
- ・交流人口受入施設の整備事業
- ・市街地再編事業
- ・圏央道 IC エリアの地域活性化 等

※なお、詳細は第2次芝山町まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

200,000 千円（2020 年度～2024 年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度6月頃、外部有識者により設定した事業のKPIに対する効果の検証を行う。また、検証結果をWEBサイトにより公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

5－3 その他の事業

該当なし

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで